



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第  
8号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第5巻第8号). 泌尿器科紀要 1959, 5(8): 806-806

ISSUE DATE:

1959-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111794>

RIGHT:

## 編集後記

学会議の選挙が近ずいた。この会議は我国諸学界の最高綜合のものであるから、その存在意義は大きい。然しそれだけに立派な実効を挙げることが望ましい。人間というものは一般に高い地位に就くと角がとれるが、他方には気力もなくなり易い。政府機関や役所の委員を依頼されたりすると、つい政府や役所に対して硬論を吐きにくくなつたり、自己の意見を述べずに沈黙することになる。いわゆる御用委員になり易い。なかなかむずかしい点である。なお学会議の選挙に就ては以前から批判がある。政界の選挙に対してはつくづく嫌気がさしている。いやしくも学会議の選挙である以上は、名実共に合理的な模範的なものであつてほしい。



本年度文部省科学及び試験研究費の配分が決定した。医歯薬関係の合計額は約2億円であるが、他の色々の予算或は社会的通念から考えると、いかにも少額という感じがする。ビルディングを一つ建てても数億という。

泌尿器科関係に就てみると、機関研究と総合研究は合議的に決定せられるのであろうが、各個研究や試験研究は、実際には単数の委員によつて決定せられるのではなからうか。もしそうであれば、そのような配分方法に異議はないであらうか。自分の所の事を云うのはおとなげないが、近年は総合研究の班員になつているので、その研究費を配分されているから、研究費皆無というわけではないが、それ以外には7～8年も以前であつたか、各個研究にて3万円配分された事があるだけである。尤も総合研究班員であるから、それ以外の申請は毎年1件位に遠慮しているのであるが。全般を見ていると、よく配分される教室と、全くと云つてよい程配分されぬ教室とあるようだ。

同じような研究課題が年度によつて各個研究になつたり、試験研究になつたりしている事がある。これはどういうわけであらうか。両研究の定義の相違によるというよりも、何か他の理由によつて、或は単に便宜的に区分せられるのであらうか。これは申請手続に際して参考になる事であるから、その間の事情を知つて置きたい(昭和34年8月)。

### 購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。